



5月18日に始動！！ 12歳の中学生～23歳までの大学院生・社会人が今期の参加者

セキュリティ イノベーター 全国50名に 選出！！

宇佐見 大希 高校1年

課題に取り掛かる宇佐見君

SecHac365 のメンバーに選ばれる！！

「SecHac365」をご存知でしょうか？国立研究開発法人情報通信研究機構が主催する、25歳以下を対象としたセキュリティイノベーター育成プログラムのことです。昨年度は約40名、今年度は50名が選抜され、高校1年生の宇佐見大希君もその一人なのです。アカデミックニュース創刊号～第3号までは本校の教諭を紹介してきましたが、第4号の今回は生徒を初取材！宇佐見君の取り組みを紹介します。

応募のきっかけ

おのかちお氏のツイッターに「SecHac365」が紹介され、興味を持ったことがきっかけ。倍率の高さや、活動内容のレベルの高さもあり、ダメ元だったと話してくれた宇佐見君。ですが、書類選考の際に提出したレポートは、中学3年生（応募当時）の生徒が書き上げたものとは思えない内容でした。自身の手によって本機会を得たのです。

刺激を与えてくれる講座と参加者

プロジェクトは通年で行われます。講師は一流の研究者や、技術者たち。各々が与えられた課題に取り組み、作品を完成させます。完成させたものを持ち寄り、毎月開催される3日間のワークショップにて作品を共有。ブラッシュアップし、精度を高めているそうです。チームで力

を合わせてより良いものを完成させるという「共創」の意識も芽生えたそうです。

ワークショップは全国各地で行われ、5月は神奈川県、6月は北海道で開催されました。参加する度に強い刺激を受けるそうで、5月のワークショップで隣の席になった参加者は、最年少で情報関係の資格を取得した男子中学生。同じグループであった女子中学生は、アイルランドで開催された国際大会（スクラッチのゲーム作成部門）で優勝した人物であり、参加者のレベルの高さには驚きの連続。社会人や大学生も参加していますが、やはり意識するのは同世代の参加者。「負けずにスキルアップしたい！」と頼もしい言葉を聞くことが出来ました。

思い描く将来像

普段の彼はどこにでもいる一般的な高校生。放課後は所属する電子技術研究部の仲間と熱心に活動しています。しかし将来の夢を尋ねると、想像以上の答えが返ってきました。「IoTを簡単に実現できるプログラミング言語を作りたいです。今のプログラミング言語でも出来ないことはないのですが、中高生にとっては敷居が高いことが多く、セキュリティの面からも細かい配慮が必要です。作りたいIoTシステムがあれば、IoTセンサーを繋げて、入出力やソケット通信をシンプルに書けるように、誰にでもIoTのアイデアを安全に実現できる、自由度の高い



プログラミング言語を作るのが夢です。」と話をしてくれました。彼が社会に出る頃には、情報社会は更なる進展を果たしていることでしょう。夢を現実にするため、彼の挑戦は始まったばかりです。

